

診療情報及び診療時に採取・保管された検体を用いた研究に関するお知らせ

愛知県がんセンター

愛知県がんセンターでの診療情報および診療時に採取・保管された検体を
下記の研究に用いることになりましたのでお知らせします。

記

1. 研究代表者	藤吉俊尚
2. 研究課題名	食道表在癌(扁平上皮癌)の深達度診断 日本食道学会拡大内視鏡分類の有用性と問題点についての検討
3. 研究の概要	<p>食道癌の深達度は、転移や予後と密接に関連していることが知られており、その術前診断は治療方針を決定するために重要である。</p> <p>近年、拡大内視鏡観察の進歩により、食道表在癌の詳細な血管構造の認識が可能となった。食道表在癌のNBI拡大観察において、従来より井上分類と有馬分類が存在していた。二つの分類はともに優れた分類ではあるものの、やや複雑であり、二つ分類が存在するがために混乱を招くことがあったため、日本食道学会が、それぞれの分類を基盤として、より簡潔で、汎用性の高い基準として、拡大内視鏡分類を作成した。日本食道学会拡大内視鏡分類による病変の評価は、井上分類や有馬分類と比較して簡素化され、使いやすくなったが、その有用性、問題点についての報告は少ないため、今回我々は自験例をもとに検討する。</p> <p>主評価項目はNBI拡大観察(日本食道学会拡大内視鏡分類)による深達度診断の感度、特異度、陽性的中率、陰性的中率、正診率である。副次評価項目は白色光観察による深達度診断能、NBI拡大観察との比較、評価者間のばらつき、NBI拡大観察の正誤診に及ぼす白色光観察所見の因子抽出である。</p> <p>研究期間:平成27年1月から平成27年3月 (遺伝子解析:①行う②行わない)</p>
4. 使用する診療情報	診療情報内容(内視鏡画像、食道病理標本) 対象収集期間 平成20年7月～平成26年6月
5. 使用する検体	検体名(食道病理標本) 検体採取時期 平成20年7月～平成26年6月
6. 病名	食道表在癌(扁平上皮癌)

① この研究の科学的妥当性と倫理性は、当院の倫理審査委員会、遺伝子解析研究倫理審査委員会などにおいて厳重に審査され、承認されています。

個人情報の安全保護については、万全の体制下にて管理され実施されます。

また、調査項目は既存のデータであり、何らかの負担を生じることはありません。

- ② 具体的な研究内容を知りたい、あるいは、今回の研究に用いることを拒否したい場合には下記の問い合わせ窓口までご連絡下さい。

☆お問い合わせ☆

愛知県がんセンター管理課 会計グループ

主事 北野 孝拓

住所：〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号

FAX：(052-764-2963)

e-mail:koutaku_kitano@aichi-cc.jp

(お問い合わせは、FAX、e-mail 又は郵送でお願いいたします。)